

おやま 小山地区振興会

■代表者：会長 佐藤 英男
 ■人口：7,664 人（男 3,752 人／女 3,912 人）
 ■世帯数：2,267 世帯
 ■拠点：小山地区センター
 （胆沢区小山字道場 40 番地 1 ☎④ 0134・FAX④ 0144）
 （平成 24 年 10 月 31 日現在）

結 ⁸ -ゆい-

～ 30の地区振興会による
協働のまちづくり実践事例 ～

特色のある地区振興会の事業を紹介するこのコーナー。シリーズ8回目は、胆沢区の小山地区振興会を紹介します。

小山地区は、胆沢区の東南部にあり、南側は衣川区、東側は前沢区と水沢区に接しています。地区内の多くはのどかな農村地帯が広がる一方、水沢区寄りの東側は新興住宅地として開発が進んでいます。同地区では、体育協会支部の区域で構成する支部振興会が活動の中心でしたが、より住民が主体的となる組織にしようとして平成20年に地区振興会を設立しました。当初は、各団体の役員で構成された理事会で、地区振興会の活動や役割などを研修。部会の役割について勉強会を重ね、23年に部会を創設。現在、「総務企画」「社会福祉」「生涯学習」「生活安全」の4部会で活動を展開しています。部会主導の事業は本年度からですが、小山地区の精神と伝統を引き継いだ事業を展開しています。その中から特徴的な事業を紹介します。

■おやま「GG大会」

「おやま」とは、「小山地区」



三世代交流によるグラウンドゴルフ大会

区5支部」の語呂合わせ。そして、「GG」は親・孫・爺の三世代参加と、グラウンドゴルフを表しています。

小山地区は、「三世代ふれあいのまちおやま」を地区のスローガンにしているように、もともと世代間交流に力を入れていきます。公民館時代から続いている「三世代ふれあい広場」と銘打った地区民運動会はことしで26回目。かつてこの日だけは中学校の部活も休みとなったほど地域を挙げて行われた行事でした。その精神を引き継ぎ、こと

し新たに企画したものが「おやまGG大会」です。5支部対抗によるグラウンドゴルフ大会で、小学生2人、中学生から60歳未満2人、60歳以上4人の計8人のチーム編成で競います。参加したお母さんは、「実際にやってみると楽しい。続けてやってみたい」とおじいちゃんの趣味に共感していました。

■まちづくりリーダーの育成

「読書」を教育振興運動の中心としてきた同地区。まちづくりリーダーとして最初に選んだのは、読書リーダーの育成です。胆沢の読み聞かせグ



真剣な表情で講師の話の聞く受講者

ループ「いちごミルク」の会員を講師に、絵本の読み聞かせの基本から実技までを13人が学習しました。今後、同グループと共に地区内の幼稚園や児童館を訪問し、読み聞かせの実践も行います。

読書リーダーが増えていくことで、絵本を通した子育てや人づくりにもつながっていくと、小山地区センターの鈴木喜代治（きよじ）センター長は、期待を込めて話してくれました。

■防災設備の配置

日常の防災活動や災害時の地域連携で期待される自主防災組織。その組織率が1000の同地区では、31ある全ての自治会に防災設備を配置しました。発電機や投光器、ガソリン携行缶など、万が一に備えての配備です。今後はモデル地区の指定なども計画し、さらなる意識啓発に取り組んでいきます。



配置された防災設備



吉成信夫さんの話に耳を傾ける参加者

奥州めぐみネット（高橋貞勝代表）と市は、「奥州環境フォーラム」を11月11日、江刺総合支所を会場に開催しました。不法投棄を題材にした演劇や葛巻町の廃校を再利用した「森と風のがっこう」吉成信夫代表による基調講演と対談、エコアイデアや各団体による活動紹介の展示コーナーを設け、環境に対する意識を高めることができました。

「エコの学校・環境文化祭を開催」



モデル校の指定書を受け取る生徒

市明るい選挙推進協議会（吉田英男会長）は、水沢第一高校（滝澤昭弘校長、生徒304人）を「明るい選挙推進運動モデル校」として指定しました。将来の有権者となる高校生を対象に、選挙の意義や参政権の重要性を理解してもらうもので期間は3年間。同時に、県協議会からもモデル校として、県内で第1号の指定を受けました。

「水沢一高が明るい選挙のモデル校に」

ふるさとCM大賞inIWATE2012（岩手朝日テレビ主催）の審査会が11月18日、いわて県民情報交流センターで行われました。県内27市町村が制作した15秒の「ふるさとCM」の内容を競うこの企画。本市も市民の皆さんの協力のもと、奥州はっこの宣伝CM「奥州はっこの王国」を出品し、参加賞としてCM放映権30回分を獲得しました。審査会の様子は、12月29日の午後4時半から特別番組として放映されます。CMは、1月中旬から同局で順次、放映される予定です。



ふるさとCM撮影の様子（9月12日）

「ふるさとCM大賞に参加」

関西奥州会（森口隆次会長）による「奥州物産展」が11月25日、京都市の平野神社で開催されました。5回目の今回もつめり汁のほか、市特産の米やリンゴ、野菜などを販売。常連となった人や岩手出身の人も多く来店し、売れ行きも順調でした。同会は、市のPRのために熱心な活動が続けており、今月25日にも同神社で物産展を開催します。



関西奥州会会員の手による奥州物産展

「関西奥州会が物産展を開催」



お経を読み上げる清水寺・森清範貫主

「アテルイ・モレの碑」の法要が11月10日、京都市の清水寺で執り行われました。今回で19回目を数えるこの法要には、小沢昌記市長や関西奥州会会員など、総勢100人を超える人が参列。征夷大將軍・坂上田村麻呂に対して勇敢に戦った、東北の英雄アテルイとモレの碑に手を合わせ、供養を行いました。道行く人も足を止め、その様子を興味深そうに見入っていました。

「清水寺でアテルイ・モレの法要」